

大阪城の謎 探訪

前日来の雨も上がり爽やかな一日、会員 22 名が大阪城を尋ねました。
5 月度の歴史探訪会は NO309 渡邊雄史氏の案内で新緑の「大阪城謎巡り」を実施致しました。



左 昭和 6 年大阪市民の寄付で完成した天守閣
上 本丸に入る桜門

大阪城の歴史探訪は平成 19 年 10 月に櫓、石垣等々を探訪しましたので、今回は大阪城の謎めぐりをします。

大阪城には徳川、豊臣以前に石山本願寺（大坂本願寺）があり、その場所は全くと云うほどわからなく、又、豊臣大坂城も「大坂夏の陣黒田屏風」から当時の大坂城を想像するのが精一杯ですが、慶長元年(1596)七月に起きた大地震で秀吉の伏見城は全壊し、大阪城も天守閣、他少しの建造物を残して倒壊したと、ルイス・フロイスは記録しているので、前記黒田屏風に描かれた大坂城と、1596 年の地震以前の大坂城建造物は異なる・・・との考えがあります。

まして現存する徳川大阪城ですら、色々な不思議があり、諸説が飛び交っています。今回はそんな謎を尋ねロマンを求めたいと計画しました。

大阪城には沢山の謎があり、それらは殆どが歴史上立証されていないものが多く、学者、研究者、又はうわさ等が入り乱れ想像の域を出ないものが沢山あります。その中から十数か所を選びました。

I 謎の抜け穴



外堀に面した 6 番櫓下の、石垣に穴があります。

- ・ 真田幸村が真田の出丸に抜ける為の抜け穴とか、
- ・ 6 番櫓の物品を運び出した穴等々といわれています。

しかし陸軍が何かの都合で開けたものとも云われています

II 謎の柱継



大正時代の修理時に大工さんが遊び心で作ったものですが、

- ・ 左面は**蟻継**、 左右にスライドして組み込む
- ・ 右面は**殺ぎ継** 上下に組み込む

どうしてこの様な継ぎ方が出来たのだろうか？

III 謎の石組み



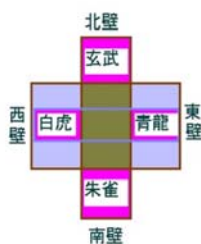
内堀南東角にある此の石組みは何のために有るのか？

- ・ 本丸から二の丸、城外に抜ける通路か？
- ・ 左上の空堀の土砂が水掘りに流れ落ちない様にした土留めか？

IV 龍・虎石



中国漢時代の四神説



桜門左右の石を竜虎石と云う

奈良キトラ古墳にもある、中国四神説からのもので、方角を守ると云われる。

雨が降ると龍と虎が浮き出ると云うが、これは全くの噂話です。

V 空堀



桜門両脇の内掘りは空堀になっている

確実な原因は分からないが

- 水脈まで掘ると掘り幅が狭くなり防御上問題がある
- 岩盤があり技術的に無理があったか

VI 巨石の安定と鉛継



巨石を立てたり、石と石を繋ぐのに工夫がされている

写真左

- 巨石を立てる為に鉄塊を詰めて調整をしている、

写真右

- 石と石を繋ぐために鉛を流し込む

VII 蓮如袈裟懸けの松



本願寺八世蓮如上人がこの地に坊社を造り、この松に袈裟を懸け宗派の繁栄を祈ったといわれていますが、

- 江戸末期の「金城見聞録」によれば、袈裟掛けの松と称された松は本丸・天主台の東側にあったとされている。また、袈裟掛けの松があったとする文献、絵画なども一切存在しない。
- ただ大正十年九月発行した「大阪城址写真帖」を見ると、20～30m はあるような巨大な老松がこの地にそびえており、脚注で「蓮如上人袈裟掛けの松」として紹介されているから大正半ばには既にこの伝承が広く伝わっていた事が分る。

VIII 人面石



本丸東北の角に人の顔を下石が組み込まれている。

此処は鬼門に当たり

- 災い避けに組み込まれたとも云われている。
- 又、徳川幕府崩壊の時に、武将が身を投げた恨みが乗り移ったとも云われている

IX 化け物屋敷跡



京橋口に定番屋敷があった付近の空き地は、ばけもの屋敷と呼ばれていた。代々の定番は妖怪に取りつかれると恐れ、稲荷社を祀っていた。

新しく赴任した戸田大隅守がこれを退治すると、大きな狐だった

X かえる石



外堀西北の隅に蛙石があった。秀吉が持ち込ませたものだが、堀に身投げした人は、必ずこの石のところに戻ると云われた、現在は奈良元興寺境内に置かれている



元興寺にある蛙石



平成 22 年 5 月 20 日
大阪城天守閣前にて